

大阪教育大学附属平野小学校「未来探究科」における資質・能力を把握する尺度の作成

問題と目的

大阪教育大学附属平野小学校では令和6年度より文部科学省研究開発学校指定を受け新教科「未来探究科」を創設し、探究的な学びの中で持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を育成するとともに、各教科の学習を統合・横断したカリキュラム・マネジメントで教育課程全体を再編することを目的とする教育課程に関する研究開発に取り組んでいる。この「未来探究科」でめざす子ども像を『社会や集団の形成者としての自覚と責任をもち多様な見方で物事を深く考える子ども』と設定している。めざす子ども像をふまえ、児童の育みべき資質・能力の効果検証の視点として、「社会的責任」「自己調整」「協働」「自己実現」「成長意欲」の5つの観点を設定した上で、それらを「未来探究尺度」とし、尺度作成を行った上で、その信頼性と妥当性を検討することにする。

方法

調査対象者 大阪教育大学附属平野小学校
4～6年生児童計267名

調査時期 令和7年2月

質問項目

未来探究に関する質問項目 「社会的責任」「自己調整」「協働」「自己実現」「成長意欲」の5つの観点について大阪教育大学附属平野小学校の教員研修を経て作成された25項目を使用する。

課題価値評定尺度 未来探究尺度の妥当性を検証することを目的として、伊田（2011）の課題価値測定尺度を使用する。課題価値測定尺度は、学校場面における授業内容の価値について特定する尺度であり、「興味価値」「私的獲得価値」「公的獲得価値」「制度的利用価値」「実践的利用価値」の5因子から構成されている。

結果

未来探究に関する質問項目について、固有値の減衰状況（9.52, 1.841, 1.32, 1.26, 0.93, 0.74, 0.66…）と解釈可能性及び当初の仮説をふまえ因子数を5と指定し、探索的因子分析（最尤法、プロマックス回転）を実施した。因子負荷量が.35に満たない項目を削除し、再度探索的因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行った結果、5因子22項目を採用した。

第1因子は、「社会のために自分ができることを考えている」など、社会に対して自身が責任を感じていることについての項目であると考えられ「社会的責任」因子とした。第2因子は、「思っていたことと違うことがあったら、自分でももっと調べたい」など、自身の学習について調整する視点あると考えられ「自己調整」因子とした。第3因子は「一人で学習するより、みんなと学習する方が楽しい」など他者との協働に関する項目であると考えられ「協働」因子とした。第4因子は「将来したいことがある」など、自分が将来実現させたいことに関するものであると考えられ「自己実現」因子とした。

これにより、5因子22項目の「未来探究尺度」とした。各因子のクロンバッックの α 係数は、.87, .86, .85, .83, .72であった。因子分析の結果をTable1に示す。

妥当性検証のために、課題価値評定尺度（伊田、2011）の5因子との相関を検証したところ、未来探究尺度の下位尺度といずれにおいても中程度以上の相関が見られた（Table2）。

考察

本研究の結果、5因子22項目の「未来探究尺度」が作成された。大阪教育大学附属平野小学校においては、新教科「未来探究科」の中で、「社会や集団の形成者としての自覚と責任をもち多様な見方で物事を深く考える子ども」の育成を目指しており、このような子どもの姿の育成のための視点として本研究で作成した「未来探究科」の下位尺度である「社会的責任」「自己調整」「協働」「自己実現」「成長意欲」にアプローチをしていく必要がある。このためには、大阪教育大学附属平野小学校の新しいカリキュラムの中でそれぞれの視点に対して具体的にどのような実践が必要であるかということを検証していく必要があるであろう。今後は、本研究で構築した「未来探究尺度」を活用した上で、実践前と実践後ではどのように「未来探究尺度」の得点が変化したのかということを検証していく必要があるであろう。またアプローチをふまえて、「未来探究尺度」の関連要因も検討していくことが求められる。

Table1
未来探究尺度の因子分析結果

	F1	F2	F3	F4	F5	M	SD
F1：社会的責任 ($\alpha = .87$)							
6. 社会のために自分ができることを考えている	.84	-.05	.01	.05	-.04	3.85	1.03
9. 世の中が良くなるためにがんばっていることがある	.81	.08	-.03	.03	-.10	3.71	1.08
8. 自分一人の力でも社会をよくすることができる	.79	-.19	-.03	-.13	.16	3.23	1.35
7. 人や社会の役に立つために行動している	.70	.01	.02	.01	.11	3.87	0.97
10. 社会がよくなる方法をよく考えている	.68	.19	-.07	.17	-.13	3.82	1.09
F2：自己調整 ($\alpha = .86$)							
19. 思っていたことと違うことがあったら、自分でもっと調べたい	-.08	.80	-.10	.01	.13	4.10	0.97
16. わからないことがあると自分でどんどん調べている	-.17	.80	-.04	.09	.05	4.12	1.01
15. 自分の学習のやり方が正しいかどうかよく考える	.07	.72	.04	.06	-.11	3.95	0.99
18. 同じ内容のことでも何度も何度も学習したいと思う	.23	.45	.03	-.17	.10	3.72	1.11
11. 失敗したときには、その原因をよく考えている	.13	.43	.01	-.13	.22	4.17	0.90
14. 今まで自分が書いたワークシートをよく見ている	.29	.39	.16	-.05	-.06	3.58	1.24
12. うまくできる方法が何かをよく考えている	-.01	.39	.08	.04	.37	4.35	0.82
F3：協働 ($\alpha = .85$)							
21. 一人で学習するより、みんなと学習する方が楽しい	-.04	-.25	.97	.09	.06	4.39	0.96
22. 友だちの考えをきくのが好きだ	.09	.02	.79	-.12	-.02	4.24	0.88
24. 友だちと一緒に学習するのは、自分のためになる	-.15	.16	.71	.01	.06	4.43	0.82
23. 自分の考えとちがう他の人の考えが、自分の役に立つことがある	.08	.29	.56	.05	-.16	4.24	0.93
F4：自己実現 ($\alpha = .83$)							
1. 将来したいことがある	-.05	-.02	.04	.86	-.07	4.40	0.93
4. 夢をかなえるためにしていることがある	.05	.06	-.06	.82	.06	4.15	1.02
2. 自分の目標に向かってがんばっている	.16	-.09	.06	.43	.37	4.28	0.83
F5：成長意欲 ($\alpha = .72$)							
5. したいと思ったことはやりとげたい	-.02	.06	-.07	.00	.71	4.53	0.75
3. 自分が成長できたと感じるうれしい	-.02	.08	.10	-.01	.60	4.64	0.65
17. 失敗してもすぐに次に向かってチャレンジしている	.17	.17	.02	.00	.48	4.18	0.94
因子間相関							
	F1	F2	F3	F4	F5		
		.71					
			.57				
				.40			
					.57		

削除項目

13. 学習の中でふりかえりを書くのがすきだ。
20. 知らなかつたことに出あうとうれしい。
25. 自分の考えを他の人に聞いてもらいたい。

Table2
各尺度の記述統計と相関係数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	M	SD	α
1. 社会的責任										3.70	0.91	.87
2. 自己調整	.67 **									4.00	0.75	.86
3. 協働	.43 **	.56 **								4.32	0.75	.85
4. 自己実現	.58 **	.54 **	.41 **							4.27	0.80	.80
5. 成長意欲	.57 **	.69 **	.49 **	.57 **						4.45	0.63	.83
6. 興味価値	.50 **	.62 **	.48 **	.43 **	.58 **					6.20	0.78	.72
7. 制度的利用価値	.49 **	.48 **	.38 **	.48 **	.46 **	.49 **				5.72	1.27	.93
8. 私的獲得価値	.59 **	.62 **	.51 **	.44 **	.62 **	.68 **	.62 **			5.91	1.10	.92
9. 公的獲得価値	.67 **	.93 **	.58 **	.55 **	.68 **	.53 **	.46 **	.59 **		3.84	0.82	.90
10. 実践的利用価値	.63 **	.61 **	.47 **	.54 **	.55 **	.62 **	.78 **	.78 **	.58 **	5.82	1.18	.93

** $p < .01$